

令和4年度 第3回千葉県博物館協議会会議 議事録

日時：令和5年3月3日（金） 午前10時～12時

会場：オンライン（対面の場合は千葉県立中央博物館 会議室）

出席者：（※はオンライン出席）

委員 高橋委員※（議長）、関沢副議長※、濱田委員※、井口委員※、
 卯木委員※、湯浅委員※、鴻野委員※、細矢委員※、門脇委員※

博物館 美術館：山本館長、中松副館長、鈴木普及課長
 中央博物館：植野館長、高梨副館長、幅自然誌・歴史研究部長、
 小田島生態・環境研究部長、御巫資料研究科長
 （分館海の博物館）：斎木分館長
 現代産業科学館：田中館長、竹内学芸課長、植野普及課長
 関宿城博物館：米谷館長、尾崎学芸課長
 房総のむら：望月館長、大森副館長

文化振興課 戸崎副参事、学芸振興室：立和名室長、小出技師

事務局 島立企画調整課長、関上席研究員、吹春上席研究員、玉井研究員、
 樽研究員（記録）

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 座席表、議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿
- 3) 議事資料 千葉県立博物館・美術館の資料データベースの現状と課題

1 開会【事務局】：委員10名のうち9名の出席により会議成立。

傍聴者なし。

2 あいさつ【中央博物館：植野館長】

3 議事（別紙参照）

4 行政説明【文化振興課：戸崎副参事】：なし

5 諸連絡【事務局】

6 閉会【事務局】

(別紙)

【議事】

(1)：県立博物館・美術館の資料データベースの現状と課題

【高橋議長】

今日も活発なご議論をよろしくお願いいたします。それでは議事1の県立博物館美術館の資料データベースの現状と課題ということについて、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

今年度は、博物館情報システムの更新について、委員の皆様にご審議いただいております。第3回目の今日は、県立博物館美術館の資料データベースの現状と課題というテーマについて説明させていただきます。

来年度更新予定の博物館情報システムですが、大きくホームページと資料データベースに大別されております。今回は資料データベースに焦点を当てて、その概要、活用例、利用者別の事例についてご説明いたします。まず中央博物館からデータベースの概要について10分ほど説明の後、中央博物館、現代産業科学館、関宿城博物館、房総のむらの活用事例について説明させていただきます。その後30分ほどの総合討論を行います。各館の説明は質疑応答も含めて7分程度を予定しております。中央博物館は分館もございまして、20分程度です。美術館につきましては、現在アドバイザー会議で今後の美術館について見直しているため、将来的なことについては次年度以降にご説明できればと考えております。

それでは中央博物館から順にお願いいたします。

【中央博物館】

配布資料(1～3頁)とパワーポイント等を用いて説明

【高橋議長】

画像データを入れにくいという話がありましたが、それには何か理由があるのでしょうか。

【中央博物館】

博物館の資料データベースでは、画像だけが別のフォルダのようなものに入っている状態になっており、紐付けがあまりうまくいっていません。そのため、ファイルの名前を博物館独自で作っているファイル名に作り替えて、それから登録するという形にしないと後

で整理がつかなくなってしまう状態になっております。これは多分解決できることだと思いますので、次期システムでは改善したいと考えております。

【細矢委員】

自然科学系は芸術や美術と違って、資料の数がものすごく多いというのが一番大きな悩みどころだと思います。先ほど寄贈資料は小さいラベルから情報を読み取ってデータベースを作成されるとご紹介されました。このようなことはおそらく古い標本に生じることと考えられます。新しく寄贈される資料に関しては最初の段階からデータベース化、電子化された情報が入ってくることもあるので、効率よく進められるんじゃないかというふうに思いますが、その辺の事情はいかがでしょうか？

【中央博物館】

大量に寄贈していただくときに、データベースを作って一緒に寄贈して下さるという形があります。実際にこれは本当にありがたく、エクセルの表などの状態で、データベースに流し込めば格段に仕事が早くできます。ただ現状は、寄贈して下さる方がご高齢の方が多く、何の目録もないという状況が今まだほとんどでございます。そのため、寄贈くださる方のメモ書きや野帳から情報を拾い上げて、例えば浅間山って書いてあってもどこの浅間山なのかわからない等の、そういうようなものから作るということが多いです。

【細矢委員】

おそらく自然科学系博物館共通の悩みであると思います。非常に同感するところです。それからもう一つ、古い標本だと難しいかもしれませんが、緯度経度や標高といった位置情報を入れた標本はこれからどんどん価値が上がっていくと思いますが、この情報は収集されていますでしょうか。また今のようなデータベースの中に入っているものでしょうか。

【中央博物館】

分野によって異なっておりますが、動物系のもの、特に深海魚等の海の生き物は緯度経度がないと採集地を表現できませんので、ほぼ全て入っています。植物については千葉県の特事情がありまして、開館当時、平成元年頃、あまり緯度経度を使う習慣がなかったので、千葉県独自のメッシュコードを作りました。4桁で千葉県全体を1キロのメッシュに切るものです。現在はこれを1キロのメッシュの右下の部分で、緯度経度をとっており、このプロトコルで行っていますという表現をしながら、緯度経度を入れていくという方針です。実際 GBIF などに登録するときは、全てこのようにしています。現在の博物館の情報システムを構築する以前からこの方法で登録しておりますので、データの追加を今後やっていきたいと思っています。

【細矢委員】

最初から世界測地系とかで登録するという事は、今後はやらないということなのでしょうか。

【中央博物館】

地図と連動できればいいと思っておりますが、まだ今後の課題となっております。

【細矢委員】

特にその魚類とか、専門の方もいらっしゃると思いますが、DNA 資料とその標本に由来する資料との紐づけも今後大事なことではないかと思えます。この辺の対応というのはどうされてますでしょうか？

【中央博物館】

それが本当に課題になっていて、DNA 用の資料は冷凍庫で別置しており、まだ対応ができていないところです。ただデータベース上での番号は共有していますので、何とか紐付けはできる状態ではありますが、今後対応しなくてはならないと思っています。

【高橋議長】 それでは続きまして各館の活用事例につきましてご説明をいただきたいと思えます。中央博物館お願いします。

【中央博物館】

配布資料（4～5頁）とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

ありがとうございます。ただいまのご説明に関しまして、ご質問等あればお願いいたします。

【門協委員】

今の利用者が、学生と研究者、博物館の職員とマスコミ出版社であり、今後、一般の方の利用者を増やしていきたいというご説明でした。私はこの中であると一般に含まれると思えます。ご説明の中で、学生、研究者などそれぞれの立場にとってのデータベースの使い方が明示されていましたが、それと同様に一般の方の使い方を想定しないと、画像の点数を増やただけでは利用者の増加を図ることはなかなか難しいと思っています。単に Google にキーワード入れて調べるより、もっといい調べ方があるということは勉強にはなりましたが、私自身いつこのデータベースを使うのか明確にわかりません。一般の方た

ちがどういうふうを使うかっていうのを想定して更新しなくてはなりませんし、そもそも、このデータベースを一般向けに改良する必要があるのかどうかということも思いました。

【中央博物館】

ご指摘いただきありがとうございます。ついつい画像が増えれば、利用が増えたと、考えてしまいますが、今後考えていきたいと思っております。

画像のデータベースの利用方法ですが、お年寄りの方々が昔のことを知って元気になるという方法でお使いになれる例を多くお聞きしております。また、タブレットを利用すると、画像を拡大させることができます。これを例えば観光ガイドの方たちに使っていただくというような使用方法を考えていきたいと思っております。

【門協委員】

使い方が具体的にわかると活用方法も見えてくると思います。

絵はがきの写真がどこで撮られたのか、マップでポイントがわかることは面白いなと思いました。今カメラを日常でほとんど全ての人たちが持ち歩いている状況にあります。だから、同じ場所、同じ角度で写真を撮影できることを売りにした時に、そういう人たちを検索のデータベースに呼び込むにはどうしたらいいかというところから考え始めないといけないと思います。観光のガイドさんは歴史を説明するときにフリップなどを出して説明しておられます。おそらくこのデータは地域の博物館などからいただいていると思いますが、そこだけでは間に合わないような、もしくはもっといい画像がこのデータベースにあるということがわかれば、ガイドさんもよりいい資料でお客様に説明できる機会があると思います。それを知らしめるにはガイドさんが集まっている組織にリーチしていくことが必要で、データの整備とプロモーションを同時にしていかななくてはならないと思いますので、もしよろしければ、そういうところも検討してもらえるとより利用が増えるのではないかと思います。

【中央博物館】

自然史系の情報については、千葉県のことであれば、ここで何でもわかるという図鑑のようなものを目指していくのが一番王道であると思います。それでも、ご指摘いただいた通りプロモーションが必要で、ウェブサイト上の入り口がもっと魅力的なものになる必要もあると感じました。

【湯浅委員】

会長挨拶にて、植野館長がご説明をされた改正博物館法の一つの方向性に対する対応ということはよく理解しました。併せて中央博物館のご説明の中にありました、デジタルトラ

ンスフォーメーションについて、博物館がどのような方向でこれを受け止めて、どこまで何を目指すのかということをご説明いただきたいと思います。

【中央博物館】

改正博物館法につきましては、文化庁が文化審議会の博物館部会の方でご議論いただいている内容でございます。ですからまだ結論が出ておりませんが、今回の改正博物館法の可決に至って、国会の中で議論がなされておりますので、ゆくゆくはこういう思考を持った動きが国の方から主導で進められていくと理解しています。ただ、皆様ご承知のように紙ベースで資料を管理している博物館、収蔵資料がそもそも少ない博物館など、いろんな博物館の多様な形態がございますのでどう取りまとめていくかという最大公約数がまだ見えていないということが実情でございます。ただ全国的に見ても、県立博物館・美術館は資料データベースを早期から導入しているため、他の館からは注目されております。できれば、さまざまなノウハウを発揮できる活動に繋げていきたいと考えております。

【細矢委員】

中央博物館の自然科学系は、私は GBIF の関係でも仕事していましたが、非常に多くのデータを提供していただきまして、いつも努力に感謝しております。自然科学系はそれでいいとして人文系に関連してですが、先ほど「のり」と検索するということで画像を見せていただきました。生物系とは異なり、古写真等はデータベース化がしにくい類のものではないかと思えます。生物の場合は学名や和名、地名をフラグにすればいいということが一目瞭然でわかりますが、捉えどころがない、いろいろなキーワードが思いついてしまう絵葉書、古写真というのは、同じような言い方で名前を統一することにもものすごく苦労があると思えます。その辺についての取り組みというのはどのようにされているのでしょうか。

【中央博物館】

非常に実は苦労しているところなんです。まだなかなか始めたばかりで統制ができていない状況です。先ほどの「のり」の写真は真ん中に海苔も映っていますので、非常にタグを付けやすいのですが、なかなかタグを付けにくい画像もたくさんございます。絵はがきの場合はタイトルを入れればそれでかなりヒットしますが、写真の場合は、こちらでタグをつけないとですね、ヒットしません。タグの付け方についてなかなか統一できておらず、たとえば千葉県の博物館で共通のタグの付け方もあると思えますが今後検討していきたいと考えていく事項だと思っております。

【細矢委員】

非常に苦勞するところであることも間違いなくて、先ほどの「のり」の例ですと、海も入っているし、船というのも実はキーワードとして思いついてしまいます。その辺の強弱がものすごく大変だというふうに思いました。同様の例で言うと例えば自然科学系ですと、桜は「サクラ」と検索すると何一つヒットしません。なぜかというとならサクラはほとんど全て何とかザクラという名前で登録されているからです。だから、キーワードとしてサクラというのを新たに設けておかないと正しい方向が誘導できないのではないかということもあるので、これデータベースをやる人たちの共通の悩みとして、今後解決できるようにみんなでお悩んでいきたい問題であると思いました。

【高橋議長】

続きまして、現代産業科学館からお願いいたします。

【現代産業科学館】

資料（6頁）とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

画像があると例えば先ほどのタイガー製手回し式計算機なんて見てみたいと思うのですが、やはり画像を加えていくという作業が大変なのでしょうか。

【現代産業科学館】

当館の場合の2、3年で職員が変わりますので、写真を撮ってデータベースへの追加作業の方法について引き継ぎが難しく現状スムーズに行えておりません。そのため、もう少しスムーズに進められれば良いと考えております。

【高橋議長】

ありがとうございます。続きまして、関宿城博物館お願いいたします。

【関宿城博物館】

資料（7～9頁）を用いて説明

【高橋議長】

データベースを全て公開しているわけではなく、限定的になっているということでしたが、それは資料として一般に公開されていないからということではなく、著作権などの関係で公開されないということでしょうか。

【関宿城博物館】

著作権等がクリアされていないものはもちろん公開しておりませんが、作業的にまだ進んでいないというのが実情でございます。

【高橋議長】

他の博物館とも関係すると思いますが、このような収蔵物があることだけでもデータベースの中で確認できると、その後の利用に繋がるのではないかなと思います。私の感覚ですが全体像がわかるという意味でこういう収蔵物があれば行って見せてもらおうかというような、実際の利用に繋がっていくのではないかなと思いました。それでは、房総のむらからお願いいたします。

【房総のむら】

資料（10頁）を用いて説明

【高橋議長】

情報公開がしにくいという理由の一つがよくわかりました。ありがとうございます。特に房総のむらに限定しなくても、少し聞き忘れた、言い忘れたということも含めましていろいろご意見ご質問いただきたいと思いますと思っております。

【関沢委員】

データベースを作成するにあたって、写真が追いついていないと、本当によくわかるところでございます。写真の撮影や登録の作業はそれぞれの博物館にいらっしゃる職員でなされているのか、それとも業者に委託しているのか、実際のところはいかがでしょうか。

【中央博物館】

基本的に全ての作業は職員が行っております。先ほど房総のむらで資料の写真サイズが小さかったという話もありましたが、撮り直しをして、また再度アップという作業が、全て職員のお仕事ということになります。

【関沢委員】

ただ撮影すればいいというわけではないので、結構作業量が多く大変だと思います。

【中央博物館】

その点もありまして、なかなか画像登録というのが進まないという現状でございます。

【高橋議長】

この作業について県としての予算立ててみたいなのは難しいのでしょうか。ある程度できる人が作業を行わないと差が出てきてしまうと思うんですが、追いついていないという理解なのですね。

少し話が変わりますが、データベースを県民がうまく使う工夫、取り組みについてどのようなものが可能かお聞きしたいと思います。いかがでしょうか？

【細矢委員】

第1回のときに申し上げましたが、調べ学習に焦点を当ててはいかがでしょう。千葉県立博物館・美術館の場合だと、千葉県というベクトルがはっきりしています。だから千葉県立の高校や中学などの地元の郷土史などに関係あるようなことで調べ学習を行うときに、データベースをうまく活用できないだろうかという課題を与えて、たとえばコンテストのような形にして、盛り上げていくというのは良いのではないかと思います。先ほどの絵はがきは全く面白い試みで、昔はこういうところだったけれど今こういうふうになりましたというのを先ほど仰っていましたが、例えば比較するようなものが自由研究の成果物になりうると思います。このような形で利用を促進することは考えられる一つの手段ではないかと思います。

GBIFとかS-Netで植物や動物の標本を利用することもどんどん促進してもらいたいと思っています。この際に、やはり一番大事なことは、地理情報が入っていて、分布がわかるということになります。これがわかっただけでも、多様性に関する研究成果というのが得られますので研究論文的なものにはなっていくだろうというふうに思います。さらに、横断的にデータベースを利用すると、例えば資源植物がどこに分布していることが、いつまでわかっている、あるいは、いつからわかっているということを利用して、このような民具ができています等、横繋ぎをしているデータベースの醍醐味を利用してはいかがと考えます。

最後にもう一つですが、このようなことを実際に行っていく上でデータを作っていく際に、博物館現場の人は、誰か雇えば指導して代わりにデータを入れてもらえるのに、お金がなくて全部自分でやらなくてはならない、自宅へ持って帰ってやらなくてはいけないということで苦しんでいるところがあるかと思います。なので、これからの博物館は法改正に対応していこうということであれば、予算確保のようなものにご配慮いただけるよう、行政の方にはお願いしたいところです。

【濱田委員】

子供たちは調べ学習でいろんなキーワードを打ちながら探しますが、簡易検索ができるもの、現代産業科学館のようにここに何か入れれば検索できるというのが窓口としてあることが魅力的だなと思いました。子供たちは画像と解説を上手に取り込みながら、調べ学習を進めていきます。お話を伺っていると、職員の方々だけで作業しているとのことだった

ので、画像を上げたり解説を入れるのが大変だと思うのですが、そこが少しでも充実してくると、すごく参考になる資料がたくさんあるなと感じました。150周年のアーカイブは、子どもたちにもぜひ紹介したいなと思っているところなので、すごく期待しているところです。

【井口委員】

説明をお聞きし、門脇委員の提言等をお伺いしていて非常に勉強になりました。今細矢委員がおっしゃったように、最終的には現場が大変な中でどう進めていくかというところが一番気になっていて、初回の会議でもマンパワーとお金の問題に触れたと思います。そういったところしか、何か打つ手はないような気がします。

私どもの博物館で市民学芸員という制度をとっておりますが、その皆さんが自治体の中にある石造物を写真撮影も含めて調査してくれて、データベースを作ってくれています。ただそれを博物館の資料までというところまで協力してもらえ体制がまだできておりません。しかし、いろいろな人の協力を得てというスタンスを博物館はとっていくしかないと思います。そういったところも含めて観光資源化するっていうのも必要で、さまざまなことを期待もされているし、ますます学芸員の負担がかかると思うのですが、上手にその仕組みを作って、市民の力を取り込んでというところを検討していかなきゃいけないと思いました。

【高橋議長】

社会科学系から市民活用でこういうことができるのか、実験例はありますか。

【関沢副議長】

データベースを作るだけで精一杯で、広報、アピールするところまで考えが及ばない傾向があると思います。先ほど濱田先生も仰いましたように、林辰雄コレクションがあること等をホームページなどで広報しますと、学校活用だけでなく様々な場面に応用できるのではないのでしょうか。千葉はよそから来られた方が多いので、ここが昔どうだったかということにすごく興味を持ってらっしゃる方がおられます。そういう方々がデータベースまでたどり着く案内、広報をすると社会活用、学校利用の方もさらに進んでいくのではないかと思います。

【高橋議長】

今の関沢先生のお話とも関係しますが、データベースの使用方法を紹介したページ、もしくは動画は博物館としてはご用意されている例はありますか。

【中央博物館】

今回、先生方からご意見いただきまして、こういう調べ方をすれば、こういうことがわかりますという活用事例の情報を公開していかないと、なかなか活用につなげることができないと特に実感したところでございます。

マンパワーとお金ということも出ましたけどもただ博物館の学芸員はそれがルーチンワークになっております。関沢先生の仰るとおり、登録して満足してしまう部分もあるのでその先、登録したものをどうやって県民の方々に活用してもらおうかっていう視点を出発点にした形で活用できるよう今後進めていきたいと思っております。

【高橋議長】

Google 検索など、みなさん普段から行っていると思いますが、データベースの検索の仕方はまた別のコツがあるので、ぜひ使い方の説明ページを作成していただければありがたいかなと思います。

また、検索するとき動植物など名前がある資料は良いのですが、具体的な名前がない資料については正しく資料のタイトルが付いていないと検索できないような事例があると思いますので、この点についてご配慮をいただきたい。加えて、データのアクセスの権限のグレードを変えて許可された人だけ閲覧できるとか、申請すると閲覧できるようなシステムの工夫もしてもいいかと思えます。

【細矢委員】

データベースの活用事例というところで議論していて、そっちの方に議論が流れておりますが、当然のことながら内部で作った人たちが利用することが最初に考えなくてはいけないことだと思います。作らされているという形でデータベースを作っていると決してうまくはいきません。作ったものを自分たちも活用するというようなことがどこかにないと絶対うまくいかないと思います。私は菌類を専門にしておりますが、公開しているデータとは別にどこの棚にこの標本があるなど、そのようなデータを入れて取り出しやすくするというような工夫をしています。公開はしておりませんが、私達にとって必要なデータ、そういうものがどこかにないと、データベースを作らされて終わりという感じになってしまいます。これも非常に重要なことですので、忘れないで注意しておく必要があると思えます。

【高橋議長】

ありがとうございます。重要な視点だと思います。それではもう時間になっておりますので、次の議事に移りたいと思えます。

(2)：その他

【高橋議長】

事務局からは何かありますか。

【事務局】

各委員の方々にお配りしております議事録案について、ご確認いただきたいと思います。事務局から2ヶ所訂正を申し上げます。6ページ目に細谷先生と2ヶ所ございます。ここを細矢委員に変更いたします。

ほかに特にご異論がないのでこれで議事録とさせていただきます、ホームページで公開いたします。

【高橋議長】

各委員からは何かありますか。

【委員】

ありません。

【高橋議長】

特になければ、個人的な意見ですが、毎回あらかじめ会議資料を郵送でいただいています。私自身はあらかじめメール添付でいただいている資料で十分で、送って戴かなくてもいいと思っております。もちろん委員の先生の中には必要な方もいらっしゃると思うので、うまく手間をかけないで済む方向の手立てを考えていただいてもいいのではないかと思っております。これに関しまして何かコメントありましたらお願いします。

【細矢委員】

賛成です。

【高橋議長】

もし何かありましたらメール等でも事務局にお寄せいただいて、事務局で少し考えていただいてもよろしいかと思っております。以上です。そのほかになければこれで議事の方は終了とし、事務局に進行をお返しいたします。ありがとうございました。